

部分的、形式的なつきあい方の増加

～「日本人の意識調査」にみる30年②～

世論調査研究員 荒牧 央



日本人のものの考え方や価値観は、どのように変化しているのでしょうか。1973年から5年毎に実施している「日本人の意識調査」の結果から、近所づきあいや親せきづきあいでは、部分的、形式的なつきあい方を望ましいと考える人が増えていることが分かりました。

【第7回調査の概要】

調査時期：6月28日(土)・29日(日)
 調査相手：16歳以上の国民
 5,400人(層化二段無作為抽出)
 調査方法：個人面接法
 調査有効数(率)：3,319人(61.5%)



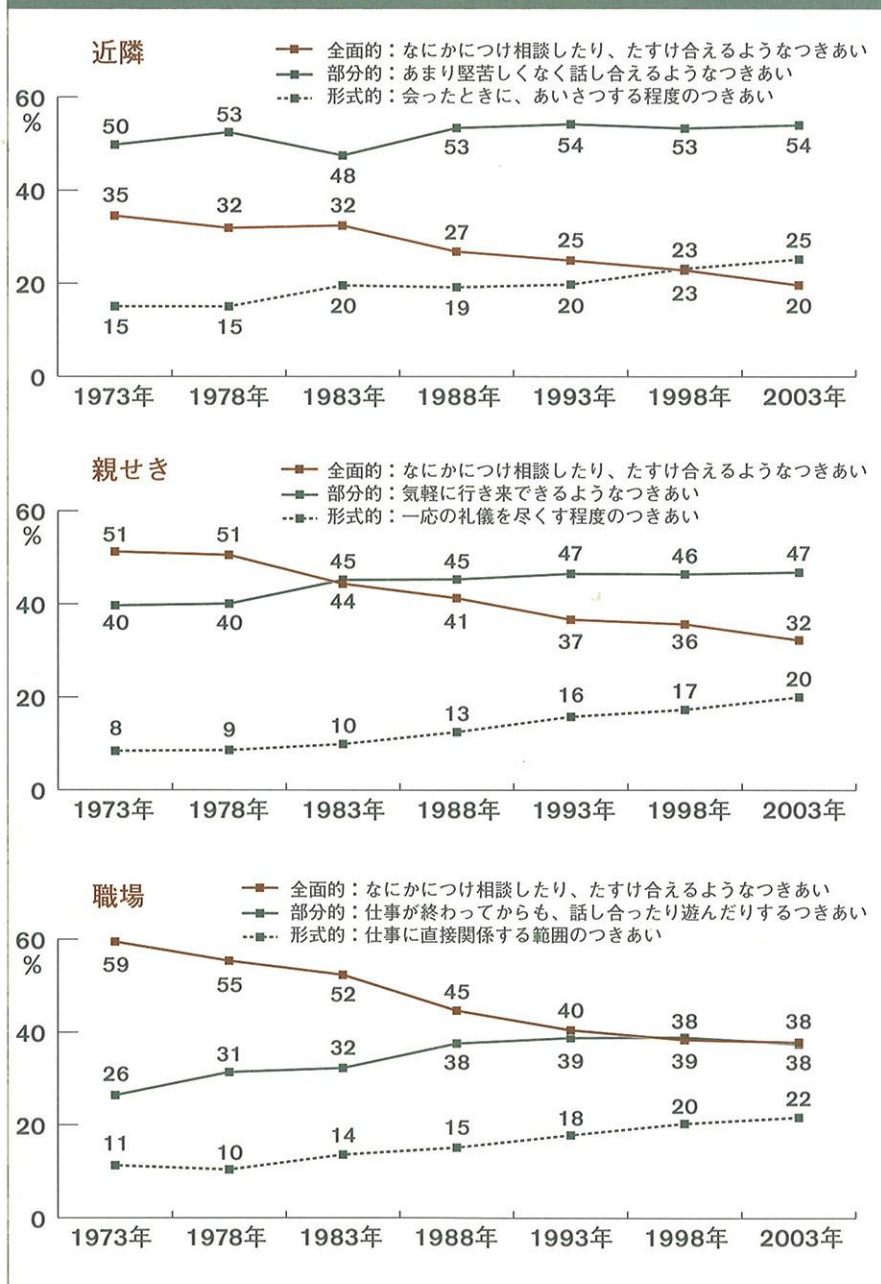
「部分的」つきあいが主流

隣近所の人、親せき、職場の同僚といった人間関係において、人びとは相手と限定的につきあおうとするのか、それとも密着した、緊密な人間関係を維持しようとするのか、調査では3つの人間関係それぞれについて、《全面的》、《部分的》、《形式的》として設定した選択肢から、望ましいと思うものを聞きました(図1)。

まず近所づきあいでは、すでに調査開始当初から「あまり堅苦しくなく話し合える」という《部分的》なつきあいを望む人が半数を占めていて、「なにかにつけ相談したり、たすけ合える」《全面的》なつきあいがよいという人はそれほど多くありませんでした。しかも《全面的》はしだいに減少し、今回の調査では《形式的》つきあいである「会ったときに、あいさつする程度のつきあい」よりも少なくなっています。

親せきづきあいでは、70年代までは《全面的》つきあいが多かったの

図1 望ましい人間関係-3つの側面別



ですが、83年を境に「気軽に行き来できるようなつきあい」の《部分的》つきあいが多くなっています。また、「一応の礼儀を尽くす程度のつきあい」がよいという《形式的》つきあいも徐々に増えてきています。

職場づきあいは3つの中では比較的《全面的》つきあいが多いものの、やはり調査を重ねるごとに減少していて、93年以降は「仕事が終わってから、話し合ったり遊んだりする」程度の《部分的》つきあいとほぼ同じ割合になっています。「仕事に直接関係する範囲のつきあい」の《形式的》つきあいも増加しています。

3つの人間関係に共通して指摘できるのは、《全面的》なつきあいへの志向が減少し、それに代わって《部分的》や《形式的》が増加する傾向にあることです。その結果、現在では3つの人間関係とも《部分的》が最も多いか、《全面的》と並ぶまでになっています。《形式的》は全体からみればまだ多くはありませんが、80年代ごろからは《部分的》よりも《形式的》のほうが増加の幅が大きく、今後も増えることが予想されます。

また、3つの人間関係のうち、《全面的》が最も多いのが職場づきあいであり、次いで親せきづきあい、近所づきあいの順となっています。この職場>親せき>近所という関係は73年の第1回から今回までずっと変わっていません。つまり、《全面的》つきあいへの志向の弱まりは特定の人間関係ではなく、3つの人間関係のいずれにおいても表れています。



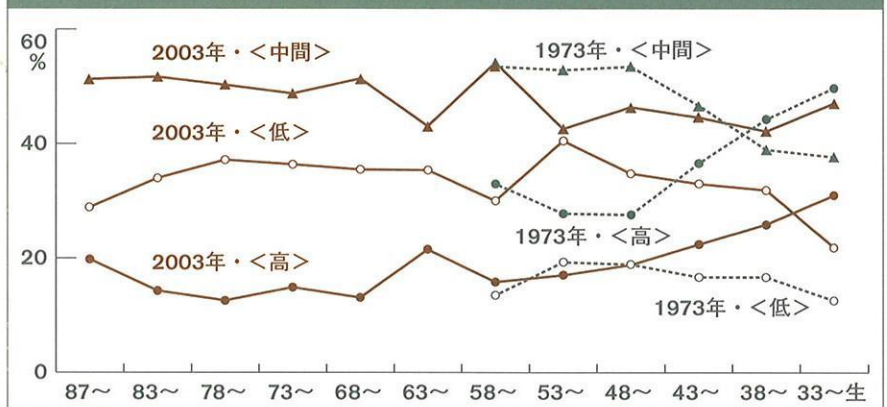
縮小する世代差

ここで、回答を《全面的》=2点、《部分的》=1点、《形式的》=0点とし、3つの質問の点数を合計して人間関係についての得点を算出しま

図2 望ましい人間関係-3つの側面の総合

	高 (6・5点)	中間 (4・3点)	低 (2~0点)
1973年	43%	43	15
1978	40	45	15
1983	35	47	18
1988	29	50	21
1993	26	49	26
1998	23	48	29
2003	20	47	33

図3 人間関係スコア (生年別)



した。この得点が高ければ《全面的》つきあいのような濃い人間関係を、低ければ《形式的》つきあいに代表されるような薄い人間関係を望んでいるとみなすことができます。回を重ねるごとに「高」から「中間」へ、「中間」から「低」へという変化の様子がはっきり表れています(図2)。また、「中間」はどの時点でも43~50%を占めています。

図3の生年別のグラフをみると、73年と2003年では同じような形で上下にずれていて、生まれ年による違いが大きいとともに時代の変化の影響も受けていることがわかります。「高」は1938年以前に生まれた「戦前・戦中世代」で多いものの、時代の影響によって大きく減り、より若い世代とのギャップが小さくな

っているようです。

近隣、親せき、職場の3つの人間関係では人びとの意識はわずらわしさの少ない対人関係に向かっています。しかし留意しておきたいのは、これらの人づきあいがどちらかといえば社会的な必要から行われる色合いの強いものだという点です。

たとえば、自由になる時間をどんなことをして過ごしたいかという質問では、「友人や家族との結びつきを深める」という回答が増える傾向にあります。親せきや同僚などよりも親密と思われる家族や友人については、結びつきを強めたいという人がむしろ増えていると考えられます。

詳しくは『放送研究と調査』3月号をご覧ください。■